

令和6年度（令和5年度事業）
教育委員会に関する事務の
点検・評価報告書

令和6年9月

にかほ市教育委員会

はじめに

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています。

にかほ市教育委員会でも、法律の趣旨にのっとり、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たすため、学識経験者の知見を活用した点検及び評価を行い、報告書を作成しました。

この点検及び評価に基づき、施策の効果の検証と改善を図りながら、教育行政の公正かつ適正な執行につとめてまいります。

令和6年9月

にかほ市教育委員会

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

評価の実施方法	・・・・・・・・・・	1
事務事業評価表について	・・・・・・・・・・	1～2
評価結果の公表	・・・・・・・・・・	2
事務事業評価一覧表	・・・・・・・・・・	3
事務事業評価表	・・・・・・・・・・	4～13
評価委員の意見（総評）	・・・・・・・・・・	14～15

1 評価の実施方法

点検・評価の対象

令和5年度に実施している事務事業のうち、教育委員会各課等の課題や目標として定めた重点項目10事業を選定し、点検及び評価を行いました。

点検・評価の観点

事務事業の目的・内容に照らし、投入した事業コストに対して実績や成果と必要性、有効性、効率性、達成度から、客観的な評価を行ったうえで、内部評価、事業の方向性について総括しました。

点検・評価の主体及び方法

事務事業評価表により担当課による事業検証を実施するとともに、外部評価委員からの意見・評価をいただきました。

2 事務事業評価表について

対象とする事業

点検及び評価の対象は、本市教育の基本方針による重点目標に即した取り組みとして実施している令和5年度の主な施策・事業等としています。

評価者

所管課の事業担当者が評価者となり自己評価を行いました。

I. 事業の目的・内容（Plan）

事業の目的・内容

何のために当該事業を行っているのか、事業実施により何をどうしたいのか、どういったことが課題なのか、目的・内容・課題について記載しています。

II. 事業の取り組みとコストの状況（Do）

事業コスト

事業費は、各年度における決算額を千円単位で記入し、概算人件費は、事務事業の実施にどの程度の人件費を費やしているかを記載しています。

実績及び成果

事業費及び人件費を投入した結果、どれだけの事業を実施することができたか、また、目的が達成されたか把握できるように、事業の実施によってもたらされた直接の成果についても可能な限り数値で表しています。

III. 事業の評価（Check）、今後の方向性（Action）

（1）事業についての評価

事業の評価

必要性

現在の市民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうか、縮小又は休止・廃止した場合の影響は大きいかを評価しました。

有効性

施策や運営方針、市で策定した総合発展計画の目標成果が得られているかどうか、市民の満足度が得られているかを評価しました。

効率性

事業コストがかかりすぎていないか、事業が効率的に実施できたかを評価しました。

達成度

計画どおり達成しているかを評価しました。

内部評価

事務事業の費用対効果や手段の妥当性等を教育次長及び所管課の長が評価を行い、課題等への対応やその結果を記載しています。

(2) 事業の今後の方向性

現状の課題と今後の取組み

当該事業の実施に際して生じた課題の抽出とそれに対応する今後の取組みを記載しています。

総合評価

所管課が評価した結果について、「にかほ市教育委員会評価委員会」から総合評価をいただきました。

外部評価委員の意見・評価

所管課が評価した結果について、「にかほ市教育委員会評価委員会」から選定した全項目についてご意見をいただきました。評価の客観性により所管課では気づかなかった点が確認できるとともに、問題・課題の解決につなげます。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取組み

内部評価結果及び外部評価結果を分析し、一層の事務事業の改善に取り組み、学校教育・生涯学習などの教育行政の更なる推進を図ります。

3 評価結果の公表

教育委員会教育総務課で所管課の評価表を総括のうえ、ここに報告書としてまとめました。本報告書は市議会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、市民からの意見も広く聴取します。

R5年度事務事業評価 事業一覧

重点目標	番号	事 務 事 業 名	担 当 課
知・徳・体の調和のとれた 子どもの育成	1	奨学資金貸付事業	教育総務課
	2	部活動指導員事業	学校教育課
多様な学習機会の提供	3	市民文化祭	生涯学習課
	4	料理・栄養講座	仁賀保公民館
	5	俳句講座	象潟公民館
	6	米村でんじろう実験教室開催事業	フェライト子ども科学館
	7	ブックスタート事業	図書館こぴあ
	8	白瀬南極出前講座	白瀬南極探検隊記念館
	9	仁賀保勤労青少年ホーム 施設改修事業	仁賀保勤労青少年ホーム
伝統文化の保存・継承	10	埋蔵文化財分布調査事業	文化財保護課

発展計画の目標	知・徳・体の調和のとれた子どもの育成			番号	1		
事務事業名	奨学資金貸付事業	主要施策	新たな教育課題への対応				
		担当課	教育総務課				
I. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	基	金	会	計	
事業の目的	優良な学生・生徒であって経済的理由によって、修学が困難な者に対し、学資を貸付し、有用な人材育成を図る。						
事業の内容	貸付希望者の募集を年2回行い、選考委員会において生徒の成績及び家庭状況等から、貸与の可否を決定し、奨学金の貸与及び返還に関する事務を行う。						
事業の課題	近年は年間貸与額が年間返還額を上回っているため、資金の減少が見られる。また、事務の効率化（システム導入）と滞納者に対する対応が課題となっている。						

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
	ア 事業費 ①	千円	45,280	53,470	54,900
	うち一般財源	千円	45,280	52,570	54,900
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.4	0.4	0.4
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	2,462	2,714	2,773
	オ 総コスト ① + ②	千円	47,742	56,184	57,673
実績及び成果	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
	貸与人数 月額貸与	人	73	89	91
	入学一時金	人	22	18	10

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きい	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない			
	有効性 市民の満足度が得られている	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない			
	効率性 効率的に実施できた	☐ 効率よく実施 ☐ 概ね効率よく実施 ☒ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない			
	達成度 目標を計画どおり達成している	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない			
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が		☒ あがっている ☐ あがっていない
		手段の妥当性	手法を見直す必要が		☐ ある ☐ なし ☒ その他（事務効率の向上）
		事業の方向性	☐ 拡大 ☐ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☒ その他（基準の見直し）		
	評価に対するコメント	経済的な理由により進学をあきらめるようなことが無いよう、事業の継続は必要と考えている。事務作業の煩雑さが顕著であるため、システム導入を必要とする。			

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	利用者の増加は喜ばしいことだが、返還期間を延ばしたため貸与額が返済額を上回り資金の減少が生じている。
今後の取り組み	事業そのものは継続したいが、現行の資金事業が継続できるよう、貸与者数の定員制などの手法も考えたい。
総合評価	☐ 拡大 ☐ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☒ その他（基準を見直しながら継続）
外部評価委員の意見・評価	経済的に余裕のない人を救う大変重要な事業のひとつである。システム化が図られるということで、事務作業に見通しがもて、より人に目を向けることができると思う。財政面のことも十分考慮し、選定基準等を見直しながら事業を継続して良いものを目指していただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	令和6年度、奨学金システムを導入。移行に向けた準備作業は大変ですが、システムが軌道に乗れば事務効率率が上がり、担当者の事務負担の軽減や管理業務の正確性の確保につながると考えられます。今後、基金の範囲内で継続的な運用を行っていくため、収入基準(所得基準)の改定など、令和6年度より奨学生の選定基準について見直しを行っています。
---------	--

発展計画の目標	知・徳・体の調和のとれた子どもの育成		番号	2
事務事業名	部活動指導員事業	主要施策	児童生徒の学力向上及びたくましい心と体の育成	
		担当課	学校教育課	
Ⅰ. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款 10	項 1 目 5 節
事業の目的	中学校における教員の部活動指導に係る負担を軽減するとともに生徒の技術面等の向上を図る。			
事業の内容	学校長の監督下で顧問（教員）の代わりに部活動の練習の指導や大会の引率を行う。			
事業の課題	部活動指導員に適した指導者を見つけたり、年間の活動時間が限られているため、休日に活用したりすることが難しい。			

Ⅱ. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
	ア 事業費 ①	千円	204	647	1,355
	うち一般財源	千円	86	396	903
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.1	0.1	0.1
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	615	678	693
	オ 総コスト ① + ②	千円	819	1,325	2,048
実績及び成果	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
	部活動指導員事業	人	1	3	5

Ⅲ. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない	
	縮小・休止・廃止の影響は大きいのか	にかほ市の部活動では、外部指導者を活用しているが、活動中の事故等に対する責任の所在が不明確なことから外部指導者だけでは日常の指導者、大会の引率ができない。部活動指導員を活用することで、顧問なしで練習の指導や大会の引率もできるため、教員の負担軽減につながる。	
	有効性	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない	
	市民の満足度が得られているか	にかほ市の部活動を担当している教員の4割が得意でない部活動を担当している。部活動指導員を活用することで、技術的な指導を行うことができ、生徒のスキルアップにつながる。	
評価	効率性	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない	
	効率的に実施できたか	外部指導者を部活動指導員として活用しているため、負担なく実施できている。	
内部評価	達成度	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない	
	目標を計画どおり達成しているか	平日の練習においては、部活動指導員を活用しているため、顧問の負担軽減につながっている。	
	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
	手段の妥当性	手法を見直す必要が ☒ ある ☐ なし ☐ その他 ()	
内部評価	事業の方向性	☒ 拡大 ☐ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()	
	評価に対するコメント	専門的な知識や技能をもった外部指導者を部活動指導員に任用していることや顧問がいなくても日常の指導ができることから、生徒が安心して練習に取り組んだり、顧問の負担軽減につながったりしている。	

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	各校1名ずつしか配置していないため、さらに部活動指導員を増員していく予定であるが、事故対応や生徒指導等については学校側とさらに連携をとる必要がある。
今後の取り組み	事故対応や生徒指導等については、部活動指導員と学校側が情報交換を密にする等の連携を十分に図ることができるよう教育委員会として指導、助言していきたい。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	子どもたちの成長のため、先生方の助けのためにも重要な事業である。少子化の影響で、部活そのものが存続しないという現実もあり、中学校関連の合同チーム化による指導範囲の拡大も考えられる。指導者の確保や学校や生徒を理解した指導方法、安全面への配慮も重要となってくると思われる。より良い形への指導を行っていただきたい。

Ⅳ. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	部活動指導員がいることで、体力的にも精神的にも教員の負担が大幅に減り、教員の多忙化防止にもつながっている。今後も生徒指導面や安全面についても研修を行い、生徒の発達段階に沿った指導ができるようサポートしていきたい。
---------	--

発展計画の目標	多様な学習機会の提供		番号	3
事務事業名	市民文化祭	主要施策	芸術文化の振興と支援	
		担当課	生涯学習課	
Ⅰ. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款 10	項 4 目 1 節
事業の目的	市民の芸術文化活動の成果を発表する機会と市民が芸術文化に親しみ、鑑賞する機会を提供することを目的とする。			
事業の内容	市芸術文化協会（共催）や自主学习グループと連携して、展示部門の作品の出展や発表部門（音楽祭・芸能祭）への参加を促進し日頃の学習成果を発表する場を創出する。			
事業の課題	今年度は、体験コーナーやバザー部門の再開など令和元年度以前の通常開催とほぼ同様の開催方法で行った。コロナ禍の3年間で活動を休止となった団体もあり、コロナ禍以前に出展・参加していた団体や個人への積極的な呼びかけにより出展内容の充実を図り、来館者数の増加につなげて文化祭を盛り上げた。コロナ禍において新たに組み込んだ参加型交流イベントについても継続し、他課及び仁賀保高校との連携により内容を充実させた。			

Ⅱ. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
	ア 事業費	① 千円	1,907	2,381	2,464
	うち一般財源	千円	1,907	2,381	2,464
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.3	0.3	0.3
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ)	② 千円	1,846	2,035	2,080
	オ 総コスト ① + ②	千円	3,753	4,416	4,544
実績及び成果	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
	出展者数・出演者数(延べ人数)	人	2,909	3,623	4,350
	観覧者数(延べ人数)	人	3,194	4,884	5,800

Ⅲ. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きいのか	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない 今年度はコロナ禍以前の通常開催とほぼ変わらない状況で開催する予定である。コロナ禍の中、活動を止めてしまった方、休止している方も増えてしまったが、市民が自分の取り組んでいる芸術文化活動の成果を発表する機会であると同時に直接芸術に触れる貴重な機会となっているため、その必要性は高く影響は大きい。	
	有効性 市民の満足度が得られているか	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない 展示部門における体験コーナー、バザー部門、お茶会などを再開します。発表部門も有観客による開催でユーチューブ配信も当日収録したものをアーカイブで後日配信します。昨年行った体験型交流イベント(e-スポーツ体験)についても総務課、仁賀保高校と連携し内容を充実させた。出展者数・出演者数・観覧者数が増加した。	
	効率性 効率的に実施できたか	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない 昨年度より展示部門を会場巡回方式に戻し、今年度は体験コーナー、バザー部門、お茶会が加わる。発表部門についても、当日の出演者、観覧者を増やすべくユーチューブによる配信はアーカイブ配信のみとし、当日のスムーズなステージ運営に力を入れた。	
	達成度 目標を計画どおり達成しているか	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない 発表部門の開催が10月、展示部門の開催が11月のため、開催後に達成度の判断となります。	
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
		手段の妥当性	手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()
		事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
評価に対するコメント	コロナ禍を経て、アフターコロナでの通常開催なる今年度の文化祭だが、市民の芸術文化活動を発表する機会と芸術文化に親しみ、鑑賞する機会を提供する事業としてその必要性は高い。コロナ禍で模索し開催した体験型交流イベントについても内容を充実させ継続して行きたい。		

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	令和2年以降のコロナ禍による活動自粛により、活動を休止したり止めてしまった団体と個人が数多くいるため、出展者数・出演者数をどうやって増やしていくかが課題。
今後の取り組み	発表部門（芸能祭・音楽祭）と展示部門の開催を1週ずらして開催することと、昨年度より新たに取入れた体験型交流イベント（e-スポーツ体験）も総務課や仁賀保高校と連携を図りながら開催し、あらゆる世代の市民の方々に多数参加していただけるような文化祭、あらたな形の文化祭を目指したい。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	いきいきとしたまちづくり、多様な学習の機会ということで子どもたちだけではなく高齢者にも学習の機会をたくさん与えていただくような、その年代にあったサービスや企画の工夫や、時代に即したのや市民が求めるものの紹介イベント等も検討していただきたい。

Ⅳ. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	R6年度は公立美術大学とのコラボレーションが実現する。飲食ブースの募集を行い、賑わい創出を図ると同時にたくさんの作品や発表に触れる機会を設けたい。また、出展者等がこれからも意欲的に活動できる場をつくっていききたい。今後は会場を一箇所で開催できるか芸文協の方々と一緒に検討しながら、市民に喜ばれる文化祭を目指す。
---------	---

発展計画の目標	多様な学習機会の提供	番号	4
事務事業名	料理・栄養講座	主要施策	生涯学習の推進と充実
		担当課	仁賀保公民館
I. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款 10 項 4 目 2 節 7
事業の目的	料理を学ぶことだけでなく、食に関する知識を増やすことや地元の食材を知ることを目		
事業の内容	一般と親子対象の料理教室を開催。（一般：和食の基本！赤飯、親子でチャレンジ魚の		
事業の課題	稼働年齢層の参加が少ない。		

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

	区 分	単位	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
事業コスト	ア 事業費 ①	千円	20	20	10
	うち一般財源	千円	20	20	10
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.3	0.3	0.2
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	1,846	2,035	1,386
	オ 総コスト ① + ②	千円	1,866	2,055	1,396
	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
実績及び成果	実施回数	回	4	3	2
	延べ人数	人	41	25	24

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業 の 評価	必要性	☐ 影響は大きい ☒ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない			
	縮小・休止・廃止の影響は大きい	魚のさばき方以外は定員割れしているが、アンケート結果から、内容について「満足」という回答をほとんどの方から頂いている。「実際に体験出来て良かった」というアンケート結果もいただいているので必要性はある。			
	有効性	☒ 得られている ☐ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない			
	市民の満足度が得られている	受講者のアンケート結果から、ほとんどの方が、内容・講師について「満足」と回答しているので、市民の満足度は得られている。			
評価	効率性	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない			
	効率的に実施できた	ほぼ予定どおり実施できたが、そば打ち体験は親子の参加が1組だけだったので、日程を変更して一般のそば打ち体験日に、一緒に行った。親子そば打ち体験を取りやめることなく実施出来た。			
評価	達成度	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない			
	目標を計画どおり達成している	講座は、一部日程を変更してすべて実施できた。親子でチャレンジ魚のさばき方講座以外は、定員の半数程度の参加であった。			
内部 評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない		
		手段の妥当性	手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他（ ）		
		事業の方向性	☐ 拡大 ☐ 現状どおり継続 ☒ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他（ ）		
	評価に対するコメント	親子向けの講座を開催することにより、稼働年齢層に受講してもらうことができた。受講者が定員より少ない講座があったが、内容・講師については、満足度が得られている。縮小しつつ継続して事業を実施したいが、内容等、検討する必要がある。			

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	料理教室の受講者の減少。一部の料理教室を除いて、申し込みが定員の半数程度にとどまっている。（SNSが普及して外部の情報を入手しやすい状況も影響していると思われる）
今後の取り組み	体験出来て良かったという受講者の声があるので継続して実施するが、縮小しつつ事業内容等を工夫し受講者が増えるように取り組んでいく。
総合評価	☐ 拡大 ☐ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☒ その他 （事業の内容の充実と宣伝の工夫）
外部評価委員の 意見・評価	参加している人たちが満足しているという実態から、今後いかに参加者を増やすか、そして参加した人たちに満足と答えていただける状況をつくっていくことができるかが重要である。内容の充実と同時に広報活動などの参加者を募る手段の工夫も検討していただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	興味のわく内容(市内飲食店の料理)に変えたり、SNSを活用したりして参加者の増加を図っていく。
---------	---

発展計画の目標	多様な学習機会の提供	番号	5
事務事業名	俳句講座	主要施策	生涯学習の推進と充実
		担当課	象潟公民館

I. 事業の目的・内容(Plan)

事業の目的	俳聖松尾芭蕉が訪れた最北の地「象潟」で詠んだ句は、本市の自然や歴史などが育んできた、いわゆる地域の歴史文化資源であり、これら地域資源を活用とした、俳句のさらなる文化芸術の推進と地域活性化を図る、その足掛かりにするため当該講座を開催する。
事業の内容	講座の中で、松尾芭蕉と象潟との所縁、歴史を学習する時間を設け、象潟と芭蕉、俳句について関心を深める。また講座で俳句づくりの基本を学習し、その後松尾芭蕉ゆかりの地を巡るほか、外を散策して俳句の種を探して句をつくる、いわゆる「吟行」を楽しむ。さらに出来上がった作品展示を通じて参加者の生きがい創出と文化意識を高める。
事業の課題	定員数（20人）に対して受講者（6人）が少ない。また、この「俳句講座」からサークル活動への移行や既存サークル等への幹旋、および指導者の確保が必要である。

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

	区 分	単位	R4年度決算	R5年度予算	R6年度予算
事業コスト	ア 事業費 ①	千円	0	20	20
	うち一般財源	千円	0	20	20
	イ 事務事業従事者数(年間)	人		0.1	0.1
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	0	678	693
	オ 総コスト ① + ②	千円	0	698	713
	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
実績及び成果	受講者(延べ人数) 4回実施	人	0	18	56
	教室実施数 4回実施	回	0	4	4

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない
	コストもかからず取り掛かりやすい事業と考える。様々なことに関心と興味を持ち、心が豊かになる効果も期待されるため生涯学習の観点から必要性は非常に高い。本市が文化芸術の推進を図るため必要である。	
	有効性	☒ 得られている ☐ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない
	市民の満足度が得られているか	アンケートの回答では全ての方が「大変満足」と回答していることから、高い満足度が得られている。
	効率性	☐ 効率よく実施 ☐ 概ね効率よく実施 ☒ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない
内部評価	効率的に実施できたか	事前の事務処理、当日の進行については効率的に実施できたが、受講者の確保については思案が必要。
	達成度	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない
	目標を計画どおり達成しているか	アンケートでは全ての項目において全員が最高の評価としており、目標は達成しているものとする。
	総合評価	費用対効果 コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
	手段の妥当性	手法を見直す必要が ☒ ある ☐ なし ☐ その他 ()
評価に対するコメント	事業の方向性	☒ 拡大 ☐ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
	評価に対するコメント	アンケートの結果から事業の有効性は非常に高いため、受講生の更なる確保に努め来年度以降も実施していきたい。

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	4回講座で連続ではなく間引きしての開催のため欠席者も多い。また平日開催であるため受講者の確保が見込めない。
今後の取り組み	休日開催であれば参加できたという若者の声が数件あったことから、開催時期、日程、曜日等の調整を図りたい。市内事業所宛てにダイレクトメールを送り、特に公民館に無縁の若い人の参加を呼びかける。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	サークル未加入だが、俳句をつくってみたいという方々がいると思うので、そのような方々が俳句を親しみきっかけとしての講座を目指してもよいと思われる。「俳句講座」を「入門講座」とする等、はじめての方でも受講しやすくなる工夫と、この講座をきっかけに俳句愛好家となった方にサークルに入ってもらおうための手助け等も検討していただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	令和6年度は俳句初心者の方が受講しやすいよう「俳句の基本講座」と題して開催します。また、実際に俳句講座を受講した方のうち1名が、講座を機にサークルへ入会しているため、そのような方をより多く輩出するきっかけとなるよう、講座の内容について講師と入念に打合せ、検討していきます。
---------	--

発展計画の目標	多様な学習機会の提供	番号	6
事務事業名	米村でんじろう実験教室開催事業	主要施策	「フェライト子ども科学館」「白瀬南極探検隊記念館」の充実
		担当課	フェライト子ども科学館

I. 事業の目的・内容(Plan)

事業の目的	当館のサイエンスプロデューサーでもありテレビでも有名な米村でんじろう氏による実験教室やサイエンスショーを開催することで、将来を担う子ども達に科学の不思議と楽しさを体験してもらい、学習する意欲を育てる。
事業の内容	米村でんじろうサイエンスプロダクションによる実験教室を年3回開催する。なお、サイエンスショーについては隔年で開催しており今年度は開催しない。
事業の課題	米村でんじろう氏は人気が高く毎回ほぼ定員に達しているが、市外からの申し込みが多いため、費用対効果を上げるにはにかほ市民の割合を増やす対策が必要と思われる。

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

	区 分	単位	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
事業コスト	ア 事業費 ①	千円	5,550	2,860	1,870
	うち一般財源	千円	5,550	2,860	1,870
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.05	0.05	0.05
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	307	339	346
	オ 総コスト ① + ②	千円	5,857	3,199	2,216
	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
実績及び成果	実験教室参加者数(延人数)	人	52	187	150
	サイエンスショー入場者数	人	208	-	-

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の 評価	必要性	☐ 影響は大きい ☒ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない
	縮小・休止・廃止の影響は大きいのか	科学館開館当初から継続している主要イベントであり影響は大きい、参加者数の減少も考慮する必要がある。
	有効性	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない
	市民の満足度が得られているか	参加者からの評価は高い。
評価	効率性	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない
	効率的に実施できたか	開館当初から当館サイエンスプロデューサーとして継続依頼していることにより特別価格で事業を実施している。
評価	達成度	☐ 達成 ☐ ほぼ達成 ☒ 未達成 ☐ 現時点で判断できない
	目標を計画どおり達成しているか	コロナ禍以降定員割れが続いていたが、コロナ禍明けの今年度も定員割れとなった。少子化等による影響かと思われる。
内部 評価	総合評価	費用対効果 コストに見合った効果が ☐ あがっている ☒ あがっていない
		手段の妥当性 手法を見直す必要が ☒ ある ☐ なし ☐ その他 ()
		事業の方向性 ☐ 拡大 ☐ 現状どおり継続 ☒ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
内部 評価	評価に対するコメント	科学館の特性を生かした事業であり、継続することで理科教育の充実と将来を担う子ども達の発想力を培っていくことができる。また、フェライト子ども科学館恒例イベントとして定着しており科学館のPRと評価アップにつながる。

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	コロナ禍以降、参加者が定員割れとなっている。参加者に対するにかほ市民の割合が少ない。
今後の取り組み	参加者数が多い夏休みの開催に一本化し、より多くの方が参加しやすいよう教室の内容や周知の方法を工夫する。また市内優待価格を継続し市民の参加率アップを図る。
総合評価	☐ 拡大 ☐ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☒ その他 (内容、宣伝の充実)
外部評価委員の意見・評価	でんじろう教室が規模縮小したとしても、科学館全体で魅力ある施設としてレベルアップしていただきたい。全国の中でも優れた施設であることは間違いないので、大人にも門を広げるなど、多様な学習の機会の提供を検討して来場者がアップするような事業展開をお願いしたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	令和5年度リニューアル事業により来場者はアップしておりその効果を活かし様々な学習機会を提供する。来場者とでんじろう実験教室等のイベント参加者の相乗効果により、科学館の魅力向上につなげていきたい。
---------	---

発展計画の目標	多様な学習機会の提供			番号	7
事務事業名	ブックスタート事業	主要施策	図書館の充実		
		担当課	図書館		
Ⅰ. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款	10	項
事業の目的	赤ちゃんが絵本を通して心ふれあう時間と親子で絵本に親しんでもらうきっかけをつくる。				
事業の内容	4カ月集団検診時、親子に絵本をプレゼントする。配布の際は、読み聞かせボランティアより赤ちゃんへの読み聞かせも合わせて実施する。				
事業の課題	配布する絵本が手元にある場合は、絵本の交換ができるよう種類を拡充し、また、プレゼントで終わらせるのではなく、引き続き親子で本を楽しめるよう、図書館の利用を周知する必要がある。				

Ⅱ. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

	区 分	単位	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
事業コスト	ア 事業費 ①	千円	227	235	133
	うち一般財源	千円	227	235	133
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.1	0.1	0.1
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	615	678	693
	オ 総コスト ① + ②	千円	842	913	826
	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
実績及び成果	ブックスタートブック配布	人	74	76	70

Ⅲ. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性	☐ 影響は大きい ☒ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない	
	縮小・休止・廃止の影響は大きいのか	赤ちゃんが絵本を通していっしょに過ごす時間をつくるきっかけづくりとして必要な事業である。	
	有効性	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない	
	市民の満足度が得られているか	参加者から、絵本が配布され、読み聞かせボランティアと話をする事ができて、ほっとする時間が持てたと好評をいただいた。子育てで忙しい保護者の心のケアにも繋がっていると思われる。	
	効率性	☒ 効率よく実施 ☐ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない	
効率的に実施できたか	4カ月集団検診を利用して行っているため、全ての対象者にもれなく実施できている。地域で生まれたすべての赤ちゃんが絵本と保護者に会えることができる。		
達成度	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない		
目標を計画どおり達成しているか	赤ちゃんへ読み聞かせを行うことは難しくないと保護者からの理解を得られていることに加え、親と子を結ぶ絵本の素晴らしさについて再認識できたとの意見もいただけており、今後も継続するべき事業であるといえるのではないかと。		
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
		手段の妥当性	手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()
		事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
評価に対するコメント	絵本を通して親子がふれあう時間のきっかけづくりとなり、子供の健やかな成長と子育てを応援する事業として継続するべきである。		

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	配布した絵本だけで終わらず、多くの絵本を利用してもらえるよう図書館への来館機会の増加を図る必要が求められる。
今後の取り組み	ブックスタート事業の際に、蔵書絵本や子育て本を紹介したり、こびあで月1回行っているおはなし会（読み聞かせ）についてもPRし、継続的な図書館利用を促す。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	少子化の時代にあつて、子ども一人一人を大事に育てるという子育てのしやすい市としての大切な事業であり、また、活字も読めない年代のお子様からお母さんが愛情を込めて色々な話を聞かせるというような素晴らしい事業である。この事業がきっかけで図書館の利用継続にも繋がっており、現状維持をしつつ続けていただきたい。

Ⅳ. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	字や言葉の意味を全て理解できない赤ちゃんでも、大好きな人に話しかけられたり、微笑んでもらったりすることで幸せ効果を生み出している。赤ちゃんの成長に合わせた本を紹介していくことで、継続して図書館を利用するきっかけづくりを創出したい。
---------	---

発展計画の目標	多様な学習機会の提供	番号	8
事務事業名	白瀬南極出前授業	主要施策	「フェライト子ども科学館」「白瀬南極探検隊記念館」の充実
		担当課	白瀬南極探検隊記念館
Ⅰ. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款 10 項 4 目 9 節

事業の目的	白瀬南極探検隊から続く日本の南極観測について、元南極観測隊員を講師に迎え、普通に生活しているうえでは決して目にすることのない南極の姿、現地で日々観測活動を行っている隊員の姿を紹介し、はるか昔南極大陸を目指した白瀬南極探検隊の偉業と重ねながら、次世代を担う小中学生に夢を持ち、チャレンジする大切さを伝える。
事業の内容	にかほ市内の小中学生の児童生徒を対象に実際に南極観測隊員として参加した方々から講師を引き受けてもらい、白瀬南極探検隊と現在の南極観測についての講話をしてもらう。そのほか、体験学習として南極の氷や南極観測隊員の防寒着、南極の石や隕石について体感してもらう。
事業の課題	出前授業が単発で終わってしまう傾向がある。事前事後学習の模索。

Ⅱ. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
	ア 事業費 ①	千円	0	0	33
	うち一般財源	千円	0	0	33
	イ 事務事業従事者数(年間)	人		0.1	0.1
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	0	678	693
	オ 総コスト ① + ②	千円	0	678	726
実績及び成果	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
	実施回数	回	0	3	4
	参加児童生徒数(延べ人数)	人	0	101	150

Ⅲ. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きいか	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない			
		小中学生の児童生徒に南極についての学習の場として必要である。			
	有効性 市民の満足度が得られているか	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られている ☐ 現時点で判断できない			
		講話だけでなく体験学習もあるため、参加型で好評である。			
	効率性 効率的に実施できたか	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない			
	準備物や会場設定について学校側と事前協議しているため、概ね効率よく実施できている。				
価値	達成度 目標を計画どおり達成しているか	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない			
		今後も学校の要望を聞き入れながら、専門分野の講師を選定し実施していく。			
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が	☒ あがっている ☐ あがっていない	
		手段の妥当性	手法を見直す必要が	☒ ある ☐ なし ☐ その他（ ）	
		事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他（ ）		
	評価に対するコメント	普段、生活するうえでは決して接することのない「南極」という世界は小中学生の児童生徒にとつては、世界に目を向け新しい価値観を持ってもらう一助となるよう今後も継続していきたい。			

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	各校の年間カリキュラム調整
今後の取り組み	輪番制を提案し、各校に周知したい。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	記念館が自ら外に出てアピールしていくことも重要なので、出前授業を継続していただきたい。出前授業の前に来館してもらい理解を深める機会づくりや白瀬さんの生き方、精神を学ぶことに加え、南極というグローバルな視点で自然や脱炭素について考えていくことも大事なことで両輪で進めていくことも検討していただきたい。

Ⅳ. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	対象を5年生とし、白瀬の生き方、白瀬隊の探検精神を学ぶとともに、実際に南極を体感している元観測隊員の価値観、視点から環境問題等を広い視野でとらえるきっかけとなるよう、継続していきたい。
---------	--

発展計画の目標	多様な学習機会の提供	番号	9
事務事業名	仁賀保勤労青少年ホーム施設改修事業	主要施策	芸術文化の振興と支援
		担当課	仁賀保勤労青少年ホーム

I. 事業の目的・内容(Plan)

事業の目的	建築から40年を超え施設が老朽化しており、計画的な改修により施設の長寿命化を図る。今後も芸術文化の活動の拠点として場所を提供していく。
事業の内容	計画的な改修による施設の長寿命化を図る。
事業の課題	公共施設総合管理計画及び個別計画に基づく再編及び検討

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

	区 分	単位	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
事業コスト	ア 事業費 ①	千円	38,731	12,027	19,540
	うち一般財源	千円	5,431	12,027	40
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.50	0.25	0.25
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	3,077	1,696	1,733
	オ 総コスト ① + ②	千円	41,808	13,723	21,273
	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
実績及び成果	昇降機設備更新	基	1		-
	建築・設備更新	式		1	1

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の 評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きい	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない
	有効性 市民の満足度が得られている	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない
	効率性 効率的に実施できた	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない
	達成度 目標を計画どおり達成している	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない
	総合評価	費用対効果 ☒ コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
内部 評価	手段の妥当性	手法を見直す必要が ☒ ある ☐ なし ☐ その他 ()
	事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
	評価に対するコメント	今後は施設の長寿命化をしつつ、利用しやすい環境を整備していく。

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	館内の照明及び舞台照明設備のLED化並びに現在使用している設備等の更新
今後の取り組み	公共施設総合管理計画に基づく再編及び検討が必要となってくる。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	にかほ市にとって必要な施設であることから、計画的な改修による施設の長寿命化を図り、利用者が快適に過ごせるような環境設備の充実にも取り組んでいただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	計画的な改修による長寿命化及び設備の更新により施設の利用環境を充実させていきたい。
---------	---

発展計画の目標	伝統文化の保存・継承	番号	10
事務事業名	埋蔵文化財分布調査事業	主要施策	郷土資料の保存・継承
		担当課	文化財保護課
I. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款 10 項 4 目 10 節 202

事業の目的	地域の歴史や文化の成り立ちを理解する上で貴重な資料となる埋蔵文化財を保護するため、各種開発事業に伴う分布調査を行う。(象潟前川地区景観保全型ほ場整備事業ほか)
事業の内容	埋蔵文化財の有無を確認するため、事前に重機および手掘りによる分布調査を行う。 R 5～8年度 象潟前川地区景観保全型ほ場整備事業(事業予定地200ha)に係る分布調査 R 5調査面積55.7haほか
事業の課題	近年、風力・太陽光発電等の開発事業が増加し、照会件数及び調査件数が増加している。調査には高い知識と技術を有する専門職員と充実した体制が必要不可欠であるが、後継者育成が課題となっている。

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
	ア 事業費 ①	千円	801	1,859	2,005
	うち一般財源	千円	801	959	805
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.3	0.6	0.6
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,155	6,785	6,934
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	1,846	4,071	4,160
	オ 総コスト ① + ②	千円	2,647	5,930	6,165
実績及び成果	名 称	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度予定
	埋蔵文化財分布・確認調査件数	件	5	4	2
	埋蔵文化財分布・確認調査日数	日	10	21	16

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の 評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きい	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない
	有効性 市民の満足度が得られている	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない
	効率性 効率的に実施できた	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない
	達成度 目標を計画どおり達成している	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない
内部 評価	総合評価	費用対効果 コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
		手段の妥当性 手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()
		事業の方向性 ☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
	評価に対するコメント	国・県補助事業を活用し、貴重な歴史遺産となる埋蔵文化財を保護することや、開発事業を円滑に進めるためにも、年次計画を立てて分布調査を実施する。

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	今年度は発掘調査も実施しており、突発的な埋蔵文化財の照会や調査に対応できる十分な体制が整っていない。開発事業計画の早期把握と適切な事前調整、専門職員の育成が課題となっている。
今後の取り組み	ほ場整備事業及び各種開発事業に係る分布調査をR 5～8年度まで予定している。専門職員養成のため、OJTのほか、外部研修や臨地研修等人材育成・能力開発研修への受講を促す。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	過去と現在と未来をつなぐ事業として継続をお願いしたい。このような現場を見学する機会の検討と、記録保存の重要性を認識し、専門職員の育成も頑張っていたいただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	今後も、ほ場整備事業や白幡森地区開発計画等大規模な開発が予定されているため、計画的な調査実施と記録・保存のための調査報告書を作成する。行ヒ森遺跡発掘調査の報告会を郷土史市民講座等で実施する。県の指導や臨地調査、他市町村との情報共有を図りながら、専門職員の育成と技術向上を目指す。
---------	---

評価委員会の意見（総評）

1. はじめに

教育委員会評価委員会では、事務局から提出された10事業の管理及び執行状況について担当者からヒアリングを受け、意見交換の後、点検・評価を行った。

ヒアリングでは、事務事業評価シートをもとに説明を受けたが、パンフレット等の説明資料も添付され、各事業の内容が分かりやすく良かった。各委員からは実施内容を評価する意見が多く、日頃の活動に敬意を表したい。

内部評価の達成度では、「達成」が2事業、「ほぼ達成」が7事業、「未達成」が1事業（未実施）だった。実施に伴う当局の苦労や努力は理解できるが、事業目的「達成」へ向け各事業の課題を十分検討し、次年度に活かして頂きたい。

総合評価では、「現状どおり継続」が7事業、「その他」が3事業だった。どの事業も重要度が高く、計画どおり事業を進めることが適当と判断した。「その他」は内容の見直しや周知の徹底を図ることにしている。

全体的には、学校教育は新しい学びに対応した事業が進められており、生涯学習でも市民ニーズを踏まえたプログラムが展開されている。高齢化と人口減少、テクノロジーの変化などで、教育の現場や社会全体の価値観が大きく変わってきた。教育委員会の事務事業もこれに対応していく必要がある。今回の点検・評価により直面する様々な課題を解決し、にかほ市教育行政がより充実することを願うものである。

2. 知・徳・体の調和のとれた子どもの育成

「奨学金資金貸付事業」については、経済的に余裕のない人を救う大変重要な事業の一つである。システム化が図られるということで、事務作業に見通しがもて、より人に目を向けるということができると思われる。財政面のことも十分考慮し、選定基準等を見直しながら事業を継続して良いものを目指していただきたい。

「部活動指導員事業」については、子どもたちの成長のため、先生方の助けのためにも重要な事業である。少子化の影響で、部活そのものが存続しないという現実もあり、中学校関連の合同チーム化による指導範囲の拡大も考えられる。指導者の確保や学校や生徒を理解した指導方法、安全面への配慮も重要となってくると思われる。より良い形への指導を行っていただきたい。

3. 多様な学習機会の提供

「市民文化祭」については、いきいきとしたまちづくり、多様な学習の機会ということで子どもたちだけではなくて高齢者にも学習の機会をたくさん与えていただくような、その年代にあったサービスや企画の工夫、時代に即したものや市民が求めるものの紹介イベント等も今後検討していただきたい。

「料理・栄養講座」については、参加している人たちが満足しているという実態から、今後いかに参加者を増やすか、そして参加した人たちに満足と答えていただける状況をつくっていくことができるかが重要である。内容の充実と当時に広報活動などの参加者を募る手段の工夫も検討してい

ただきたい。

「俳句講座」については、サークル未加入だが、俳句をつくってみたいという方々がいると思うので、そのような方々が俳句を親しむきっかけとしての講座を目指してもよいと思われる。「俳句講座」を「入門講座」とする等、はじめての方でも受講しやすくなる工夫と、この講座をきっかけに俳句愛好家となった方にサークルに入ってもらうための手助け等も検討していただきたい。

「米村でんじろう実験教室開催事業」については、事業が規模縮小したとしても、科学館全体で魅力ある施設としてレベルアップしていただきたい。全国の中でも優れた施設であることは間違いないので、大人にも門を広げるなど、多様な学習の機会の提供を検討して来場者がアップするような事業展開をお願いしたい。

「ブックスタート事業」については、少子化の時代にあって、子ども一人一人を大事に育てるという子育てのしやすい市としての大切な事業であり、また、活字も読めない年代のお子様からお母さんが愛情を込めて色々な話を聞かせるというような素晴らしい事業である。この事業がきっかけで図書館の利用継続にも繋がっており、現状維持をしつつ続けていただきたい。

「白瀬南極出前授業」については、記念館が自ら外に出てアピールしていくことも重要なので、出前授業を継続していただきたい。出前授業の前に来館してもらい理解を深める機会づくりや白瀬蘆さんの生き方、精神を学ぶことに加え、南極というグローバルな視点で自然や脱炭素について考えていくことも大事なことから両輪で進めていくことも検討していただきたい。

「仁賀保勤労青少年ホーム施設改修事業」については、にかほ市にとって必要な施設であることから、計画的な改修による施設の長寿命化を図り、利用者が快適に過ごせるような環境設備の充実にも取り組んでいただきたい。

4. 伝統文化の保存・継承

「埋蔵文化財分布調査事業」については、過去と現在と未来をつなぐ事業として継続をお願いしたい。このような現場を見学する機会の検討と、記録保存の重要性を認識し、専門職員の育成も頑張ってもらいたい。

以上で総評といたします。

令和6年8月

＜教育委員会評価委員＞

佐々木 正 憲	学識経験者（行政職経験者）
佐 藤 正 隆	学識経験者（PTA役員経験者）
三 浦 順 子	学識経験者（学校教員経験者）